

平成27年度学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の生徒は礼儀正しく意欲を持って何事にも真面目に取り組む反面、自主性、主体性に乏しい傾向が見られる。したがって、生徒が自らの進路目標を高く掲げ、意欲的に学習活動や学校生活に取り組むことが求められている。

それを踏まえて、今年度の重点課題として「家庭学習の充実と教師の授業力向上」、「基本的な生活習慣の改善と生徒支援スキルの向上」、「一人ひとりの生徒に応じた適切な進路指導の充実」、「学校行事への意欲的な取り組みと、読書による広範な教養の習得」、「科学的思考力の習得」を掲げた。

自己評価では、Aが4項目、Bが2項目、Cが4項目であった。特に評価Cの〔家庭学習の充実〕と〔意欲的学習態度の育成〕においては、スケジュール帳等を利用して生徒自身が、自主的・計画的に学習に取り組むようさらなる働きかけが必要である。また、〔読書習慣の形成〕においても、保護者や学校評議員の意見を取り入れ、機会を捉えた指導によって改善を図っていく必要がある。理数科学科・人文社会科学科での〔課題発見力・論理的思考力の育成〕においては、これまでの取り組みを検証し、科学的思考力を育成するための方策に改善を加えるとともに、教師間の連携を図り、より組織的に実践する必要がある。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の学校経営計画とその評価を踏まえ、次年度も「一人ひとりの生徒が自ら学び、考え、行動する力を培い、科学的思考力や探究力などより確かな学力と、より高い目標に向け主体的に進路選択する能力や態度を身につける」ことができるように実践研究や授業改善等を図る必要がある。

〔教師の授業力向上〕については、創校130周年の事業で整備されたICT設備を活用するとともに、協調学習やピア・インストラクションなどのアクティブラーニング型授業の実践研究を進め、伝統的な講義型授業から生徒が能動的に「学ぶ」授業への転換をさらに進める必要がある。

平成27年度 富山高等学校アクションプラン -1-

重点項目	学習活動																																															
重点課題	家庭学習の充実(生徒)と教師の授業力向上																																															
現 状	<p>(1) 1、2年生において、平日3時間の学習時間を確保できていない生徒が見られる。また、予習に比べて復習にかける時間が確保されておらず、学習事項の定着に不十分な面が見られる。テストの見直しも含め、復習することの重要性を認識させていく必要がある。</p> <p>(2) 年々生徒の実態は変化しており、それと共にこれまでの講義形式の授業だけでは、生徒の主体性を十分に引き出すのが難しくなっている。教師は「学び合い」・ICTの活用など、授業形態に工夫を凝らし、内容の充実を図りながら、生徒の学力をより一層伸ばす授業形態を模索する必要がある。</p>																																															
達成目標	<p>[家庭学習時間の充実]</p> <p>①1・2年生の学習時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2時間未満の生徒の割合10%未満 ・平日3時間以上の生徒の割合70%以上 <p>②1・2年生の古典、数学、英語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習を行った生徒の割合70%以上 	<p>[授業力の向上]</p> <p>①授業満足度(分かりやすい説明・板書等)80%以上</p> <p>②「学び合い」又は「ICTの活用」を行った授業の割合60%以上</p> <p>③互見授業への参加100%</p>																																														
方 策	<p>1 担任による年間6回以上に及ぶ面接等を通し、望ましい1日の生活パターンを想定させ、生活習慣の見直しや改善を図るよう指導する。</p> <p>2 平日は予習、休日は復習に重点を置き、意欲的に取り組むことができるよう、学年・教科が連携し、課題の与え方や分量等を工夫・改善する。</p> <p>3 公開授業・互見授業等を活用し授業改善を図るとともに、各教科・科目において「学び合い」・ICTを活用した授業を計画的に設定する。</p>																																															
達成度	<p>①2時間未満の生徒の割合 3時間以上の生徒の割合</p> <table border="1"> <tr> <td>1年 [4月]</td> <td>18% (16%)</td> <td>48% (42%)</td> </tr> <tr> <td>[9月]</td> <td>17% (10%)</td> <td>53% (43%)</td> </tr> <tr> <td>2年 [4月]</td> <td>17% (15%)</td> <td>49% (45%)</td> </tr> <tr> <td>[9月]</td> <td>22% (16%)</td> <td>44% (37%)</td> </tr> </table> <p>②復習を行った生徒の割合</p> <table border="1"> <tr> <td>1年 [7月]</td> <td>英57% (59%)</td> <td>数65% (64%)</td> <td>国59% (34%)</td> </tr> <tr> <td>[12月]</td> <td>英54% (61%)</td> <td>数72% (74%)</td> <td>国50% (33%)</td> </tr> <tr> <td>2年 [7月]</td> <td>英44% (41%)</td> <td>数58% (57%)</td> <td>国39% (26%)</td> </tr> <tr> <td>[12月]</td> <td>英39% (39%)</td> <td>数56% (63%)</td> <td>国36% (23%)</td> </tr> </table> <p>※()内は昨年の数値</p>	1年 [4月]	18% (16%)	48% (42%)	[9月]	17% (10%)	53% (43%)	2年 [4月]	17% (15%)	49% (45%)	[9月]	22% (16%)	44% (37%)	1年 [7月]	英57% (59%)	数65% (64%)	国59% (34%)	[12月]	英 54% (61%)	数 72% (74%)	国 50% (33%)	2年 [7月]	英44% (41%)	数58% (57%)	国39% (26%)	[12月]	英 39% (39%)	数 56% (63%)	国 36% (23%)	<p>①授業の満足度</p> <table border="1"> <tr> <td>1年 [7月]</td> <td>83% (81%)</td> <td>[12月]</td> <td>84% (84%)</td> </tr> <tr> <td>2年 [7月]</td> <td>84% (82%)</td> <td>[12月]</td> <td>84% (82%)</td> </tr> <tr> <td>3年 [7月]</td> <td>86% (86%)</td> <td>[12月]</td> <td>91% (91%)</td> </tr> </table> <p>②「学び合い」「ICTの活用」</p> <table border="1"> <tr> <td>1年 [12月]</td> <td>92%</td> </tr> <tr> <td>2年 [12月]</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>3年 [12月]</td> <td>96%</td> </tr> </table> <p>③互見授業への参加 100%</p> <p>※()内は昨年の数値</p>	1年 [7月]	83% (81%)	[12月]	84% (84%)	2年 [7月]	84% (82%)	[12月]	84% (82%)	3年 [7月]	86% (86%)	[12月]	91% (91%)	1年 [12月]	92%	2年 [12月]	91%	3年 [12月]	96%
1年 [4月]	18% (16%)	48% (42%)																																														
[9月]	17% (10%)	53% (43%)																																														
2年 [4月]	17% (15%)	49% (45%)																																														
[9月]	22% (16%)	44% (37%)																																														
1年 [7月]	英57% (59%)	数65% (64%)	国59% (34%)																																													
[12月]	英 54% (61%)	数 72% (74%)	国 50% (33%)																																													
2年 [7月]	英44% (41%)	数58% (57%)	国39% (26%)																																													
[12月]	英 39% (39%)	数 56% (63%)	国 36% (23%)																																													
1年 [7月]	83% (81%)	[12月]	84% (84%)																																													
2年 [7月]	84% (82%)	[12月]	84% (82%)																																													
3年 [7月]	86% (86%)	[12月]	91% (91%)																																													
1年 [12月]	92%																																															
2年 [12月]	91%																																															
3年 [12月]	96%																																															
具体的な取組状況	<p>1 担任による面接を年6回以上実施し、「学習生活実態調査」の結果をもとに個々の生徒の学習習慣や生活習慣の見直し・改善をアドバイスしている。</p> <p>2 学年集会で「学習パターン」を具体的に提示したり、夏休み・冬休み・春休み直前にはしおりを通して指針を示すなど、時間の自己管理について指導している。</p> <p>3 テストの見直しについては、考査・実力テスト・外部模試の終了後に、担任や教科担当が具体的に指導を行っている。</p> <p>4 アクティブラーニングの活用を学校全体に促し、授業改革のひとつとして、「学び合い」の効果を教師及び生徒に気づいてもらうよう努めた。</p>																																															
評 価	C	A																																														
	<p>学習時間3時間以上の生徒については、昨年比で増えている点は評価できる。ただ、4月から9月において一部3時間以上の生徒の増加など良い点も見られるが、全体としては70%という数値目標には届かず課題が残った。</p> <p>学習時間が2時間未満の割合と、3時間以上の割合がともに昨年より増加しており、生徒の学習実態が二極化していかないよう気をつけたい。</p> <p>教科的には1年生2年生ともに数学の復習をよく行っている様子が伺える。国語において数値が昨年より高いのは、本年度「古典」に限定した影響である。</p>	<p>授業満足度は、どの学年においても昨年同様概ね目標値に近い数値となっている。特に3年の12月の数値からは、生徒が充実感を持ちながら、志望大学への進学を目標に、積極的に授業に参加している様子が伺われる。</p> <p>また、「学び合い」の活動、「ICTを活用した授業」も非常に活発に行われており、教師及び生徒の中でその有効性への認識が高まっていることを示している。</p> <p>互見授業については、期間を限定した形式で行ったが、こうした活動が日頃から主体的に行われることが望ましい。</p>																																														
学校関係者の意見	<p>・学主時間は確かに2極化しており、2時間未満の生徒がいることは大変残念だ。学習習慣の定着は1年生からの指導が大切だ。今後も面接を通じて個々に応じた細かい指導が必要である。また学習意欲が向上するような指導をお願いしたい。勉強のモチベーション作りで問題となることは何か、洗い出しが必要ではないか。</p> <p>・ICT活用など、先生の努力の様子が感じられる。今後も授業中心で学習を続けてほしい。</p>																																															
次年度へ向けての課題	<p>・「予習－授業－復習」のサイクルを定着させ、学習内容がしっかりと身につく仕掛けや取り組みの工夫が必要である。予習の時間との両立を図るために必要な学習時間の確保を目指させたい。</p>																																															

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成27年度 富山高等学校アクションプラン -2-

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の改善と生徒支援スキルの向上	
現 状	本校では『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしているが、遅刻や欠席が学年進行とともに増加する傾向にある。 素直で真面目であるが、現実に柔軟に対応できず悩みを抱えてしまう生徒が多く、高校生活に適応しづらくなっている生徒が増えている。教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、ストレスや悩みの解消に向けて援助する取り組みが必要である。	
達成目標	①[1日当たりの遅刻者数・欠席者数] ・遅刻者数が各学年1日あたり一人未満 ・欠席者数が各学年1日あたり一人未満 (ただし、事故や通院等によるやむを得ない理由による遅刻・長期欠席等を除く)	②[生徒・保護者向け研修会等の充実] ・生徒、教員、保護者を対象とする講演会や研修会・ワークショップを年間5回以上実施する。
方 策	1 欠席や遅刻を繰り返す生徒を早期に見つけ、担任や学年主任が面接等をするともに、保護者と連携し生活習慣の改善を促す等の指導を行なう。 2 生徒に対して適宜講演会を企画するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、心身に問題を抱える生徒を早期に発見し援助する。 3 教育支援部や保健厚生部などと連携し、悩みやストレスに対応するためのスキルを、教員や保護者が学ぶ機会を設ける。	
達成度	・1日当たりの遅刻者数 1年・・・0.7人、2年・・・1.0人、3年・・・0.9人 ・1日当たりの欠席者数 1年・・・1.9人、2年・・・2.1人、3年・・・2.2人	・1年生を対象とした研修会4回 (生徒支援プログラム、SNS安全教室、エイズ・性感染症予防健康教育講話、薬物乱用防止教室) ・保護者対象の講演会2回 (受験生の保護者心構え、ネットトラブルの防止) ・教員対象研修会2回 (ピアサポート) 計8回実施
具体的な取組状況	・各学年の生徒指導部員が週毎の欠席・遅刻の状況を把握し、理由によっては個人指導を行っている。 ・安易な欠席や遅刻が続いた場合は、担任や学年主任が保護者と連絡し合って生活習慣の改善を図っている。 ・生徒支援部・保健厚生部・総務部などと連携を図りながら、研修会等を企画した。 ・全校集会や学年集会で、基本的な生活習慣の大切さについて指導した。	
評 価	C ・遅刻者数においては、学年や学級での生徒への声かけにより、安易な遅刻が少なく、ほぼ目標数値を達成することができた。 ・欠席者数においては、予想以上にどの学年も多く、残念ながら目標値を達成することができなかった。	A ・学校生活の質向上のため、生徒・保護者・教員それぞれに応じた講演会や研修会を企画・開催した。外部から講師を招いたので、新鮮な気持ちで前向きに取り組むことができた。特に保護者や教員向けの研修会では、積極的に質問する場面が見られた。
学校関係者の意見	・欠席者は以前からみれば減少している。数値のみ追いかけて、欠席理由の把握やフォローをこれまで通り続けていただきたい。 ・講演会や研修会は十分に行われ大変良い。内容も充実していると考え。SNSは保護者にとってやはり心配であり、研修は適切である。 ・保護者も含め、キャリアデザイン、ライフデザインを考える研修の機会も必要だ。	
次年度へ向けての課題	・日頃から健康管理に目を向けさせるとともに、欠席がちな生徒については、保護者と協力し合って早い段階から指導していく必要がある。また、一日の時間の使い方を望ましい方向へ持って行けるよう、機会を捉えて指導していく必要がある。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成27年度 富山高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	一人ひとりの生徒に応じた適切な進路指導の実践	
現 状	1. 具体的な進路目標の決定が遅く、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒が少なくない。 2. 個々の生徒に応じた進路支援を行うよう努めているが、必ずしも生徒自らが自己の適性や能力を真剣に考えて進路目標を定めているとは言えず、自己を過大あるいは過小に評価したまま漠然とした進路目標の設定に終始してしまう生徒も見受けられる。	
達成目標	①[意欲的学習態度の育成] スケジュール帳を活用し、週ごとに自己評価を重ねることで改善点が明確化し、学習意欲が向上した1・2年生徒の割合80%以上。	②[進路意識の向上] 進路講演会や面談を通して進路について考える意識が高まり、2年2月までに進路目標がより明確化した生徒の割合80%以上。
	1 スケジュール帳を積極的に活用させ、進路目標の設定や学習習慣の向上に役立てさせる。 2 各学年において、生徒の実態にあった進路指導の方針を明確にし、早期の進路目標決定の必要性について周知徹底を図るとともに、担任等による面接指導を徹底し、個々の生徒に適合した目標の設定やその実現に向けた助言などに努める。 3 適切な進路指導を行うため、生徒や先生方にとって必要かつ有意義な情報の提供ができるように努める。 4 社会人や大学生を招いてのキャリア講座・進路講演等を実施し、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びつくよう指導する。	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール帳を使った生活記録に関するアンケート(1,2年1月実施) (1年268名回答 回答率96%) (2年271名回答 回答率97%) 「記録の振り返りにより、生活の改善点が明確になった」 48.3% (1年58.2%、2年38.4%) 「記録の振り返りにより、学習量をもっと増やそうと思った」 69.9% (1年81%、2年58.7%) 「記録の振り返りにより、時間の使い方が向上した」 33.3%(1年46.3%、2年19.6%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会後のアンケート調査 「あなたの進路意識はどうなりましたか」の問いに対して 「意識が高まった」と答えた生徒の割合 ①1学年進路講演会(7月) 95.5% (245名中234名) ②2学年進路講演会(7月) 83.3% (251名中209名) ③2学年進路講演会(12月) 95.3% (259名中247名) ・進路面談に関するアンケート調査(1月) 「面談をきっかけに進路についてより真剣に考えようとした」 89.2% (1年92.1%、2年89.2%) 「面談を通して進路目標が以前よりはっきりした」 69.4%(1年73%、2年65.8%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の設定や学習計画の立案・実行にスケジュール帳を活用するよう指導。 ・学年集会、進路講演会、進路に関する面談等に携行させ、得られた情報や感想、疑問点や調べたいことなどを記録させる。 ・進路志望調査をきっかけにその時点での進路目標を検討させ記録させる。 ・進路目標実現を見すえ、学期ごと、月ごと、週ごとの学習目標を立てさせ、学習課題を意欲的かつ計画的に成し遂げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2年生を対象にして、以下の講演会を実施 ①1学年進路講演会(7月) 講師:横山 広美 氏 (東京大学大学院理学系研究科・理学部 准教授) ②2学年進路講演会(7月) 講師:城石 俊弘 氏 (朝日新聞金沢総局 総局長) ③2学年進路講演会(12月) 講師:吉田 直史 氏 (全国入試模試センター センター長) ・1学年キャリアガイダンス(職業人との懇談会 8月) ・HRや学年集会・面接等による進路指導
評 価	C	B
	スケジュール帳を使った生活記録により生活の改善点が明確になった生徒は48.3%で、約半数の生徒に効果が見られた。また、記録の振り返りにより学習量を増やそうと思った生徒(学習意欲が向上した生徒)は7割であった。一方、時間の使い方が向上した生徒は33.3%にとどまり、意欲の向上は見られたが、実行にまで至った生徒は多いとはいえない。	事後アンケートの結果より、いずれの進路講演会においても多くの生徒に進路意識の向上が見られた。また進路に関する面談をきっかけに約9割の生徒に進路意識の向上が見られた。進路目標の明確化については約7割の生徒が「明確になった」と答えたが、明確化できなかった生徒も3割程度いた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・取組みとしてはよいと思う。スケジュール帳の有効活用の例など提示し、生徒の工夫を促したい。 ・早い段階から進路意識向上の機会を与えていくことは良い。さらなる充実をお願いしたい。 ・自分に必要なキャリアは何かを早く考え、文理系選択ができるようになってほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール帳を活用し進路目標を早期に設定することで、学校生活をより意欲的に過ごそうとする生徒が増えることを期待しているが、効果が十分とはいえない。あらためて趣旨を伝え、生活の改善や時間の使い方が向上するよう、指導する必要がある。また、スケジュール帳の改善すべき点がないか点検し、次年度に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会は生徒の進路意識向上に効果があり、今後も人選を慎重に行いながら継続したい。 ・進路に関する面談については事前に疑問点や相談したい事柄を絞っておくよう指導し、疑問が残る生徒に対しては他の先生方と連携し複数で指導にあたるよう工夫する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成27年度 富山高等学校アクションプラン -4-

重点項目	特別活動の充実	
重点課題	学校行事への意欲的な取り組みと、読書による広範な教養の習得	
現 状	<p>①学校行事は生徒の主体的活動を促し、学校の活力醸成の重要なものである。よって内容が豊かで充実しているものが大切である。本校では生徒と教職員が協力して運営しているが、積極的に参加している生徒がいる反面、やや消極的で自主性・創造性に欠けた面も見られる。年間の行事の意義や各行事の目的・方法を検討するとともに、生徒の意識調査を通じて今後の学校行事への意欲的な取り組みにつなげていきたい。</p> <p>②昨年度の読書実態調査によると、年間12冊以上を読む1年生生徒の割合は19%、2年生生徒の割合は15%である。一方、年間3冊以下という生徒が56%いる。全体として自己研鑽の意欲がないわけではないが、教科学習や部活動の比重が大きく、どうしても読書量が増えにくい傾向にある。</p>	
達成目標	<p>①本校二大行事の学校行事に対して充実していると感じた生徒の割合80%以上。特に意欲度・満足度では、80%以上になるようにする。</p> <p>②課題以外で年間に3冊以上本を読む1・2年生生徒の割合 70%以上。</p>	
方 策	<p>1. 主な学校行事(体育大会、文化活動発表会、)に対してアンケートを実施する。 ①計画・運営に協力できたか。 ②意欲的に参加できたか。 ③満足度 ④その他意見</p> <p>2. 行事検討委員会において年間における特活行事の時期、目的、内容等の検討を行う。</p> <p>3. 月刊「図書館」、図書館だより(1・2学期1回ずつ)、富高図書館(年度末)を発行したり、1・2年に文庫本・新書本の配備を進めたりして、読書に対する興味関心を高める。</p> <p>4. 読書会・教養講座・文化活動発表会展示を生徒図書委員会の活動のもとに行い、読書の意義と楽しさを伝える。</p> <p>5. 教科・学年と連携して広く良書を紹介し生徒の読書意欲を喚起するとともに、授業や探究活動において、情報源・メディアセンターとして図書館を積極的に活用する態度を育てる。</p>	
達成度	<p><3年生の体育大会アンケート結果> ①協力度 ②意欲度 ③満足度 96.7% 85.6% 91.5%</p> <p><1・2年生の文化活動発表会アンケート> ①協力度 ②意欲度 ③満足度 1年生 96.7% 85.6% 91.5% 2年生 85.2% 81.4% 85.3% 全体 91.0% 83.5% 88.4%</p>	<p><読書実態調査の結果> ・年間に3冊以上本を読む生徒の割合 1年:72% 2年:41% 1・2年:56%</p> <p>※夏季読書感想文など課題のものを除く</p>
具体的な取組状況	<p>1.体育大会については、昨年同様3年生から実行委員を選んで企画・運営を行った。実行委員が考え行動することで、生徒が主体的に行事に取り組むことができた。</p> <p>2.文化活動発表会については1・2年生の生徒会が中心となって早くから企画・運営を行った。こちらも生徒自身が主体的に関わることで研究発表の内容が深いものとなった。</p> <p>1. 月刊図書館・図書館だより・富高図書館等の刊行物を定期的に発行し、新刊本・ベストセラーや時事に関する本を紹介した。</p> <p>2. 1学期に教員による教養講座を、2学期にクラスごとの読書会を開き、生徒全員が本に親しむ場を設けた。また、文化活動発表会では図書委員が興味深い本を推薦する展示を行った。</p> <p>3. 1年では文庫本を学級文庫として各クラスに設置し、2年では中央ロッカー付近に新書コーナーを設置するなど、読書意欲を喚起した。また、各教科に必要な本のアンケート調査を行い、学習活動に必要な書籍を完備するよう努めた。</p> <p>4. 新規図書に関しては月刊図書館での案内や、閲覧コーナーにおける新着本の配置を工夫するなど周知した。</p>	
評 価	A	C
学校関係者の意見	<p>・行事への取り組みは富山高校らしさがでており、良い。今後も高いレベルの維持を期待する。</p> <p>・生徒の読書意欲をかき立てる、地道な種々のアイデアの継続を希望する。多様な書物があることを認識させ、本を手にとってみたくなる動機付けを指導していただきたい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>・体育大会では、けがの防止を踏まえて、内容の検討と変更が必要である。</p> <p>・文化活動発表会では、準備期間の不足にならないよう、計画段階で内容をより具体化させて進めていくようにさせる。</p> <p>・多読の生徒(最高で一人84冊)がいる一方で、ほとんど本を読まない生徒が1年生で5%、2年生では28%もあり、生徒の読書意欲には幅がある。生涯にわたって本に親しむ習慣を養うためには、「読書の意義の理解」や「読書習慣の確立」が重要である。その方策として、生徒図書委員会を中心とする啓蒙活動、授業や特別活動での教師からの意識的な働きかけの両方を継続していく必要がある。</p> <p>・図書館をより利用しやすくするために様々な工夫やアイデアを取り入れて、生徒の読書意欲の喚起につなげていきたい。今後は、より実態に即した読書推進計画を立てて実行することが重要である。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成27年度 富山高等学校アクションプラン -5-

重点項目	科学教育の推進	
重点課題	科学的思考力の習得	
現 状	変化の激しいこれからの時代を生き抜くためには、「知識が豊富であること」だけではなく、「自ら課題を設定し、論理的に思考し、科学的なスキルを活用し解決を図っていく力」が必要となる。それらを育む効果的な教育課程が求められている。	
達成目標	①[課題発見力・論理的思考力の育成]	②[意欲的学習態度の育成]
	※「論理的思考力テスト(6月実施)」 学習確認テストにより「課題発見力」や「論理的思考力」が ついた探究科学科の生徒の割合 80%以上	※「意識(興味・関心・意欲)調査」 「課題発見力」や「論理的思考力」を育成する学習に意欲的に 取り組んだ探究科学科の生徒の割合、80%以上
方 策	1 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」の指導内容・指導方法を十分研究し、その教育課程について、授業担当者の共通理解と密接な連携のもとに実施する。 2 単元ごとに自己評価をさせ、自らより高い目標を設定し、主体的に学習に取り組み、高い学力を形成するよう指導する。また生徒の将来に必要な力を育むための教育課程であることを自覚させ、意欲的に取り組ませる。 3 東京方面研修を、「探究基礎Ⅱ」と効果的に結び付け、探究活動をより深めるよう実施する。 4 「課題発見力」や「論理的思考力」を育成する学習を、1・2年普通科「総合的学習の時間」の指導にも取り入れる。	
達成度	「論理的思考力」を図るテスト(2点×5問)の実施結果 <平均得点率> ①論理の前提と飛躍 29.2%(昨年度31.6%) ②推論の方法 87.0%(昨年度78.5%) ③原因と結果の関係 85.1%(昨年度51.3%) ④反論の方法と主張の補強 94.2%(昨年度72.8%) ⑤情報の整理 28.6%(昨年度28.5%) 全体の平均 65% (昨年度53%)	「意識(興味・関心・意欲)調査(3段階評価)」の実施結果 <段階3:よくできるようになった、と 2:できるようになったの生徒の割合> 6月「論理的思考力を高める学習に興味を持って、自ら進んで取り組んだ。」 ・・・97.3%(昨年度92.4%) 9月「仮説とその検証方法について意欲的に考えた」 ・・・100%(昨年度97.4%)
具体的な 取組状況	【探究科学科1年生】 4～5月:「論理の前提・飛躍、因果関係、推論、反論」などの論理的思考方法の学習 6月:外部講師による「ポスターセッション講座」を受講 7月から:「地域研究」「立山実習」をテーマとし、班ごとにフィールドワーク(7月)を含む探究的学習活動に取り組み 仮説→検証の科学的手法に則って研究の成果のまとめ 9月:文化活動発表会でポスターセッションを実施 12月:3校合同発表会見学 10月:「学問への招待」実施。京都大学のバキスタン人講師、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所のオランダ人講師来校。英語で研究の話聞く経験を通して、研究活動に対する関心・意欲を高めた 12月:2年次に取り組む課題研究に向け、テーマ設定等に取り組み 3月:各班ごとに大学教官の来校指導を受け、テーマ設定や今後の活動内容などについてアドバイスを受ける 【探究科学科2年生】 4月:各班の計画に従い、探究活動 6月:「学問への招待」を実施。大阪大学のドイツ人講師、早稲田大学のオーストラリア人講師の講演。地域の大学や研究機関で活躍している若手外国人研究者から、英語で研究の話聞く経験を通して、研究活動に対する関心・意欲を高めた 8月:2泊3日の東京方面研修。大学見学および最先端の研究機関の施設見学や班別学習 9月:文化活動発表会でポスターセッションを実施 12月:3校合同発表会でポスターセッションを実施 3学期:研究集録作成の作業。最終日に発表会 【普通科1・2年】 1学期に「論理的思考力」を育成する学習を4時間実施。その結果、文化活動発表会では、「仮説をたてて、検証を試みる」という手順を含む内容が定着してきていることがうかがえた。	
評 価	B 「論理的思考力テスト」では、昨年度より5項目中4項目で正答率が向上した。確かな論理的思考力を養うためのより効果的な指導方法を検討していきたい。	A 80%以上が意欲的に取り組んだという結果が出た。より主体的・意欲的に取り組めるよう、内容や指導方法を工夫していきたい。
学校関係者の意見	・昨年より達成度が上昇しており、良い。探究科学科に限らず、普通科へも広げてほしい。 ・探究力・論理的思考力の向上を期待する。 ・さらに意欲が上がる取り組みを今後も期待する。	
次年度へ 向けての 課 題	平成28年度入学生からの探究基礎の時間配分変更(1年次1単位、2年次2単位)に伴い、指導計画の修正が必要である。探究基礎Ⅰ・Ⅱを担当する教員は、校内教諭、大学教官、その他外部講師をあわせると50名を超える。より効果を得られるような指導体制の工夫が必要である。また、全教職員間の共通理解を深める工夫も必要である。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)